

『不幸』 作：ポチ子

『不幸』 作：ポチ子

不幸な人を見て、

可哀想だと嘆く人を見かけた。

その人は必死に、

自分も同じようなことがあったから、

苦しみが分かると言って、

顔を真っ赤にして怒っている。

よくよく見ると、

不幸な人に触れていたのは、ほんの一行で。

あとは、自分はあるな出来事があったとか、

こんな事を言われたから傷ついたのでとか、

そんな話ばかりだった。

あんなに怒っていたのに、

不幸な人のことなんて、

忘れてしまっているようだった。

不幸な人は、いなくなったりしていないのに、

気づけば、消えてしまっている。

人の不幸を嘆くのは、

自分がいかに不幸なのか、

誰かに認めてほしい裏返しだ。

自分と同等の苦しみだというのは、

不幸を語るための常套句だ。

その人にとって、

自分の不幸が最優先事項で、

それを話せるなら、

不幸な人の苦しみの大きさや、

内容なんて正直どうでもいいんだ。